

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名		看護管理				
教育内容		専門分野 看護の実践と統合	履修年次	3年次	履修時期	前期
単位(時間数)		1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員		看護師	実務経験	看護師実務経験あり		
科目目的		看護管理の意義と目的を理解し、看護活動が効果的に行われる素地を養うと共に、諸外国の健康問題と国際協力、国際的な看護支援活動について学び、国際的視野を広げる。				
学習目標		1. 看護管理の基礎を学び、今後の看護活動に活かすことができる。 2. 急性期病院で行う看護マネジメントの実践的知識を学び看護実践者としての基盤をつくる。 3. 広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力や文化を考慮した看護について学ぶ。 4. 国際救援ならびに開発協力における看護師の活動について学ぶ。				
授業計画	回	授業内容			授業方法	
	1	単元:看護管理学 1. 導入演習 1)テキストから、各自の学習目標を設定し、共有する。 2)フィードバックを通してリーダーシップを体験する。			講義・討論	
	2	2. 看護を組織として提供するための基礎知識組織を学ぶ 組織とは何か、集団の機能、チームの特性、看護制度の変遷			講義	
	3	3. 看護マネジメント論① 1)組織論及び資源管理 2)病院の中での看護師の役割、組織図の理解、ヒト、モノ、情報、コストの管理			講義・討論	
	4	4. 看護マネジメント論② 1)看護コミュニケーション 2)リーダーシップ論			講義	
	5	5. 看護マネジメント論③ 1)リーダーシップとフォロアーシップ 2)看護管理者のコンピテンシー			講義・演習	
	6	6. 看護の質管理① 医療安全			講義	
	7	7. 看護の質管理② 医療・看護の質と評価			講義	
	8	8. バランススコアカードによる経営戦略			講義	
	9	9. 人材育成とキャリア開発 労務管理、社会人基礎力、継続教育			講義	
	10	10. 看護と経済 1)医療経済 2)診療報酬、重症度、医療看護必要度			講義	
	11	11. ヘルスケアシステム論 ヘルスケアサービス提供のための制度、政策			講義	
	12	単元:国際看護学 1. 国際看護学とは グローバルヘルス			講義	
	13	2. 国際協力のしくみ 3. 多様な文化と看護			講義	
	14	4. 看護の国際協力活動 5. 国際看護の実際			講義 グループワーク	
	15	試験 看護管理・国際看護学筆記試験				
使用教材		1.ナースンググラフィカ 看護管理 メディカ出版 2.系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 医学書院 3.系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学① 看護学概論 医学書院				
参考文献		1.看護管理学習テキスト1巻～7巻 日本看護協会出版会 2.諏訪茂樹著 看護にいかすリーダーシップ第2版 医学書院 3.国民衛生の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会				
成績評価の方法		筆記試験90%・演習、課題評価10%				

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名		災害看護			
教育内容	専門分野 看護の実践と統合	履修年次	3年次	履修時期	前期
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	災害支援活動 登録看護師	実務経験	災害看護実務経験あり		
科目目的	災害が社会や人々に及ぼす影響を理解し、災害サイクルに応じた看護を実践できる能力を身につける。				
学習目標	1. 災害に関する認識を深め、災害看護の基礎的知識について理解する。 2. 災害が人々の健康生活に及ぼす影響を理解する。 3. 災害発生時の社会の対応や仕組みを理解する。 4. 災害時に看護が果たす役割、災害サイクルにおける看護支援活動を理解する。 5. 災害時における勤労者看護について考えることができる。 6. 災害が人々の健康や暮らしに影響を及ぼすことを理解し、被災者の健康や生活上のニーズに応じた看護を実践するために必要な基礎的知識・技術を習得する。				
授業計画	回	授業内容			授業方法
	1	授業ガイダンス 災害看護の始まり Ⅰ 災害看護の基礎知識 1. 災害看護の定義・分類			講義 グループワーク
	2	2. 災害の種類と健康被害 災害の種類、健康障害、災害関連死 災害と感染防御			グループワーク発表 講義
	3	3. 災害医療の特徴 4. マスギャザリングとNBC災害への対応 5. 災害と情報 6. 災害対応に関わる職種間・組織間連携 7. 災害看護と法律 8. 近年の災害における課題と対策			講義
	4	Ⅱ 災害看護の基礎知識 1. 災害看護の定義・役割・対象 2. 災害看護の特徴と看護活動 Ⅲ 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 1. 急性期・亜急性期 1) 避難所とは			講義 DVD視聴
	5	2) 避難所の立ち上げと被災者の受け入れ 避難所設営紙上シミュレーション			グループワーク
	6	2. 慢性期・復興期 仮設住居者の健康・生活支援			講義 DVD視聴
	7	3. 静穏期 1) 病院防災としての備え 2) 地域防災			講義 グループワーク 発表
	8	赤十字の災害救護活動 東日本大震災、熊本地震での救護活動の実際 国際救援活動と看護			講義・演習

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

	回	授業内容	授業方法
授業計画	9・10	災害時に必要な看護技術 トリアージとは、トリアージカテゴリー、トリアージタグ、トリアージの実施場所、トリアージ実施者、トリアージの方法	講義・演習
	11	応急処置 三角巾を使った応急処置の方法、止血など	講義・演習
	12	被災地の病院における初動態勢の構築	講義・演習
	13・14	災害とこころのケア 被災者と遺族のこころのケア	講義・演習
	15	試験	
使用教材		1. 日本赤十字社 事業局看護部編集 2. 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 医学書院 DVD① 1. 災害の状況と看護のニーズ 5'50" 2. 災害直後の看護 14'46" ② 目で見える災害看護Vol.2 19'20" ③ 実践編「災害看護への取り組み」 3. 災害中長期の看護16'24"	
参考文献		1. 災害看護―寄り添う、つながる、備える― 学研 2. 小原真理子 演習で学ぶ災害看護 南山堂 3. 野中廣志 実践！災害看護―看護者はどう対応するのか― 照林社 4. 勝見敦・小原真理子 災害救護 ―災害サイクルから考える看護実践― ニューヴェルヒロカワ	
成績評価の方法		筆記試験 100%	

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名		看護研究			
教育内容	専門分野 看護の実践と統合	履修年次	2年次	履修時期	後期
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	看護師実務経験あり		
科目目的	看護研究の基礎的知識を学び、主体的に研究する態度を養う。				
学習目標	単元:看護研究の基礎 1. 看護研究の意義と目的について理解できる。 2. 文献検索とクリティークの視点について理解できる。 3. 調査研究、実験研究、事例研究、質的研究の特徴が理解できる。 4. 看護研究の一般的な進め方が理解できる。 5. 研究計画書の概要が理解できる。 6. 看護研究における倫理的配慮が理解できる。 単元:ケーススタディ 1. 研究計画書が立案でき、計画的に研究を進めることができる。 2. 実習での看護過程を振り返り、看護の実践と理論を照合し、分析・考察することができる。 3. 研究を発表することの意味と発表の方法がわかる。				
授業計画	回	授業内容			授業方法
	1	単元:看護研究の基礎 1. 看護研究とは 1)看護研究とは何か 2)なぜ看護研究を学ぶのか 3)看護研究の歴史 2. 看護研究のはじめ方 1)リサーチクエスト(研究上の問い)とは 2)リサーチクエスト決定までのプロセス			講義
	2	3. 文献レビューとその方法 1)情報と科学的な根拠 2)文献とその種類 3)文献レビューとその目的 4)文献検索の方法 5)文献の入手と整理 6)文献の読み方「クリティーク」とは			講義
	3	4. 研究デザイン 1)質的研究デザインと量的研究デザイン 2)研究デザインの種類と選択 5. データの収集 6. データの分析 7. ケースレポート・事例研究の進め方 8. 研究における倫理的配慮			講義
	4	ケーススタディとは 1)計画と実施 2)看護実践からケーススタディへ			講義
	5	原著論文をクリティークしてみよう			講義
	6	夏期休暇課題を用いてグループワーク			グループワーク
	7	グループワーク発表			発表
	8	紙上試験			
	(1時間) 9	単元:ケーススタディ ケーススタディの概要説明・ケーススタディ推敲			講義

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

	回	授業内容	授業方法
授業計画	10	研究計画書の作成	各自取り組み
	11	エピソード・研究計画書についてグループワーク	グループワーク
	12	ケーススタディの各自取り組み	各自取り組み
	13	ケーススタディの各自取り組み	各自取り組み
	14	抄録作成について	講義
	15	プレゼンテーション(発表)について	講義
	16 (1時間)	ケーススタディ発表	発表
使用教材	1. 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 2. 解かりやすいケーススタディの進め方 照林社 3. 看護学生のためのレポートの書き方教室 照林社 4. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 学研		
参考文献	1. 黒田裕子の看護研究 Step by Step 第4班 医学書院 2. 看護研究サポートブック 改訂3版 メディカ出版 3. レポート・論文の書き方入門 第3版 慶応義塾大学出版会 4. 看護における研究 日本看護協会出版会 5. 看護研究の進め方 論文の書き方 第2版 医学書院		
成績評価の方法	成績評価の方法 筆記試験 最終的に、ケーススタディの合格をもって単位認定となる。		

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名		統合看護技術			
教育内容	専門分野 看護の実践と統合	履修年次	3年次	履修時期	後期
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	臨床工学士 専任教員	実務経験	臨床、看護師実務経験あり		
科目目的	既習の知識を統合し、対象の状態に応じた看護技術を安全に実施できる。				
学習目標	1. 医療システムの中の危険要因を知り、診療補助技術(および生活行動援助技術)における事故防止のための知識・技術を習得できる。 2. ハイリスク環境下で安全な看護を提供するための判断力・実践力を高めることができる。 3. 実施した場面を振り返り、観察力や思考力を習得できる。 4. 演習を通して知識・技術・態度を振り返り、自己課題を明確にできる。				
授業計画	回	授業内容			授業方法
	1	担当:臨床工学士 1. ME機器の取扱いについて ・医療機器の基本 ・取扱い注意点 ・輸液ポンプの取扱い ・シリンジポンプの取扱い ・生体情報モニタの説明 ・人工呼吸器の概要			講義 演習
	2	2. 医療機器の操作実習 ・シリンジ／輸液ポンプの操作体験実習 ・生体情報モニタの実際の動作 ・人工呼吸器の体験			体験
	3	担当:専任教員 ★科目のガイダンス～専任教員担当分の10時限を中心に Ⅰ. 医療安全に関する基礎知識の復習 Ⅱ. 危険の種類によるインシデントと事故防止対策 1. 与薬(内服、注射・点滴) 2. 輸血 3. 経管栄養 4. ライン・チューブ・カテーテル関連 5. グリセリン浣腸 6. 転倒・転落 7. 食事関連 8. 入浴介助 Ⅲ. 医療安全に活かすKYT 1. KYTとは 2. 実習中のインシデント事例からKYTの体験 3. 演習の説明			講義
	4	4. 事故防止に向けた状況判断と実施 1) 2事例のロールプレイ 2) KYTの実際 3) 記録シートのまとめ			演習 ロールプレイ グループワーク
	5	5. グループワーク結果発表 6. 質疑応答と補足説明			発表
	6	筆記試験 *2単元合わせて45分1時限			
	7				
	8				

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

	回	授業内容	授業方法
授業計画	9	担当:専任教員 オリエンテーション 1. 本単元の目標・課題、タイムスケジュール、方法の説明 2. 演習事例の紹介(4事例) 3. 事前学習の説明 4. 記録用紙、SBARについて説明	講義
	10・11	各事例の個人ワークを持ち寄り、予測される状況と看護について協同学習を行う	協同学習
	12	技術練習・準備	技術練習
	13・14	【演習課題】 1. 直面した状況に対してアセスメントし、必要な看護を実施する。援助の終了後はリーダー看護師にSBARを意識して報告を行う。 2. 実施後はデブリーフィングを行い、メンバー全員でその時の状況、考えたこと、実践したことを振り返り、知識や技術をより深める。	演習 シミュレーション学習
	15	まとめ・レポート提出	講義
使用教材		1. 系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践② 医学書院 2. 医療安全ワークブック 第3版 医学書院 DVD ①クリニカルKYT 第1部 クリニカルKYTのすすめ方・いかし方 安井電子出版 24分	
参考文献		1. 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院 2. 写真でわかる看護安全管理 インターメディカ 3. ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 MCメディカ出版 ※その他 基礎看護技術 I～VIで使用したテキスト 4. 阿部幸恵 臨床実践力を育てる！看護のためのシミュレーション教育 医学書院 5. 阿部幸恵 看護のためのシミュレーション教育はじめの一歩ワークブック 第2版 2016年 日本看護協会出版会	
成績評価の方法		前半 臨床工学士:30点(筆記試験) 専任教員:70点(講義参加態度、課題への取り組み、演習参加態度で10点+筆記試験60点) ※以上を合わせて100点満点とし、60点以上で後半講義の受講資格が得られる。	
		後半 レポート提出によって「統合看護技術」の単位認定とする。	